

北海道南支庁 ミズバショウ
作者：松岡朝乃
図例：Public Domain, Wikimedia Commons

山中與隆

短編

手紙版

オ
セ
口

Duo-Yamanka

才セ口～手紙版

山中與隆

目次

オセロく手紙版

1

編者あとがき

58

オセロく手紙版

作 山中與隆

朋之様

お変わりありませんか。こちらは元気にやっています。ここに来る準備が忙しくて、久しぶりにお手

紙します。

雨竜沼に入つてすでに二週間が過ぎましたが調査内容は膨大で、進展しているのかどうかまったく見えないくらいです。でも五人のスタッフはいまのところやる気満々で毎日早朝から、虫除けの装備と熊よけの鈴に身をかためて湿原に出かけています。ここは、夏の間は蚊が多くてこれが辛いといえは辛いです。雨の日も出かけていきます。でも元気ですか

ら安心してください。熊はめつたに出ないそうです。

宿泊している民宿は約三か月の長逗留とあつて料金が格安なので助かりますが、文化的なものとはほとんどありません。食堂に小さなテレビが一台、一応カラーですが、あるくらいで、新聞もありません。しかし、夜は夜で昼間の調査結果を整理するだけで深夜までかかり、翌朝また早いのでそれ以外のことをする時間はないのです。だから時間をつぶすよう

なものにはまったく必要ないのです。

二週間に一回、原則二泊三日で札幌に帰ることになっています。大学の研究室への中間報告と休養のためです。今回初めての休日として、明日札幌に帰り、来週の火曜日にこちらに戻ってきます。

この手紙は、あす配達に来た郵便屋さんが持っていつてくれます。

では、お元気で。また書きます。

平成二十二年七月二日 映湖

映湖様

お手紙ありがとうございます。お元気なようでした。安心しましたが、何ごともしも調査はさぞ根気のいる仕事のようにですが、

こつこつとこなす映湖ちゃんには向いた仕事かもしれないですね。

僕の方は営業の人に同行して工事現場に行つて、お客さんに技術的な説明をするのがおもな仕事です。最初はわが社の材料を採用してもらつたための営業ですが、一旦材料が採用されて工事が始まると、正しい使い方の指導が、工事が終われば終わったで、大のクレーム処理が待っています。わが社のような

材料にはライバルが多く価格競争も厳しいです。クレームとなるとそれは大変ですが、僕一人でやっているわけではないので大丈夫です。

それより映湖ちゃんに会いたいです。こうして映湖ちゃんのことを考えていると、頬に柔らかくかかる髪や、僕を見るときに優しい笑顔と眼差しなどが浮かんできて、むしろように会いたくなります。

以前の手紙で十月半ばまで調査が続くといってい

ましたが、正月にこちらに来たりすることはできませんか？

どうぞ気をつけて調査を続けてください。

七月十日 朋之

朋之様

お仕事大変なのですね。そちらに比べたら私のしていることなど、趣味の延長みたいなものに思えます。調査といつても、雨竜沼はご存知のように有名な高層湿原なのです。にさまざまな調査研究がなされて、いま私たちがしているのは院の卒論として、先人が調べ上げたここの植物を一冊の写真図鑑

にまとめることです。相手が人や会社ではないので、クレームをいわれたりすることはありません。何かあるとすればたいていは自分たちのミスです。だから気楽なものです。ただ根気は要りますね。

ここで生活していて不足なものはやっぱり音楽です。でも前にも書いたように音楽を聞く時間的な余裕はありません。夜は、その日の調査結果や資料を整理するのですが、みんな昼間の疲れで、襲ってく

る睡魔と闘いながらやつとのことで、翌日の調査が出来るように準備して、床に入るとみんなあつという間に眠り込んでしまいます。スタッフの中に、この調査期間中に思いつきり読書するのだと行ってかなりの本を持ち込んだ人がいますが、いまのところまだ一ページも開いていないといっています。

お正月に広島に行くことができるかは、いまのところわかりませんが、できることならぜひ行きたい

です。広島は朋之さんの生まれ育った郷里だし、いまはお仕事をしている場所でもあるので行ってみたいです。ゆつくりしたら、実現できるか考えてみようと思います。

私も朋之さんに会いたいです。お元気で。また手紙書きます。

七月二十一日 映湖

映湖様

お手紙ありがとうございます。早く会いたいです。

僕の仕事はあちこちの工事現場なので出張が多いです。北海道出張でもあればいいのですが、広島支店は西日本が担当エリアなので、出張先は中四国、九州に限られています。もつとも広島支店からも上の方の人は全国何処にでも出張していますから、僕

も偉くなつたら北海道出張もあるかも知れませんが。

前に現場ではクレームなど大変だと書きましたが、新米の僕だけで対応することはあまりなくて、ややこしい時にはたいてい先輩が同行してくれるので、少し大げさにいい過ぎました。

音楽が聞きたいのですね。僕の方は結構よく聞いています。いまはまっているのはドヴォルザークの《オセロ》という曲です。映湖ちゃんはその曲を知

っていますかね？十五分足らずのオーケストラの曲ですが、素晴らしくきれいな曲です。もしそちらで聞けるのだったらすぐにCDにコピーして送ってあげられるのだけど、聞く余裕がないといっていますね。

でも一応コピーを作って同封しますので、札幌に帰ったときにでも聞いてみてください。きつと映湖ちゃんも気に入ってくれると思います。

こうして手紙を書いていると会いたさが募つてきて苦しいくらいです。

正月に、こちらに来ることが実現するのを心から願っています。

七月二十四日 朋之

朋之様

《オセロ》のCD、昨日雨竜に戻ってきたら着いていました。来週の週末に帰幌するので、聞くのはそのときまでの楽しみにしておきます。

《オセロ》というのはシェークスピアの作品にあるような気がしたので、例の読書家、といつてもここに來てからまったく本を読んでいない読書家さん

に何か知っていないか聞いてみました。彼はよく知っていて、粗筋まで教えてくれました。

朋之さんはとてもきれいな曲だといわれましたが、シエークスピアの《オセロ》は悲劇なのでですね。純朴で正義の人である主人公、朋之さんみたいな人なのでですね、そのオセロが奥さんのデズデモーナの本当は根も葉もない不倫の噂を信じて殺してしまい、間違いだとかわかってオセロ自身も自殺するという随

分と血生臭いお話なのですね。送って下さったCDに入っているドヴォルザークの《オセロ》は本当にこのシェークスピアの悲劇のことを書いた音楽なのでしよるか。だとしたらどんな感じなのか早く聞きたくなって来ました。来週の週末が楽しみです。また手紙書きます。

七月三十一日 映湖

映湖様

元気で雨竜沼を歩き回っていることと思います。

ずいぶん日に焼けたものではありませんか。日に焼けて健康色の映湖ちゃんもすごくかわいいと思います。

ドヴォルザークの《オセロ》は本当にシエークスピアの悲劇に靈感を受けて作曲したようです。僕がきれいな曲だといったことに、映湖ちゃんはこだわ

っているようですが、曲にはとてもきれいな部分と激しい部分が両方あります。僕がきれいといったところも聞き方によつては不安な雰囲気を感じとることも出来るかも知れません。ただデズデモーナのテーマと考えられる旋律は、彼女の清らかな美しさをイメージできると思います。

オセロを僕のようなものはどうでしょうか。僕はオセロほど優秀でも、高潔でもないと思います

よ。でもデズデモーナは映湖ちゃんくらい清純な美しさを湛えているのではないかと思えます。僕はその映湖ちゃんを抱きしめたい・・・。

八月五日 朋之

朋之様

お元気ですか。《オセロ》聞きました。素晴らしい曲ですね。たしかに朋之さんがいわれるように、本当に美しい響きのところがいっぱいありますね。激しいところもよく聞くとやはり美しいと思いました。実は、《オセロ》のことを教えてくれた例の読書家さんにこのCDを聞くように貸してあげました。構

いませんよね。貸してあげたのが雨竜に戻る前の日だったのに、雨竜に戻ってきたらすぐに返してくれました。本当に聞いたのか確かめました。一度だけだが聞いたそうです。彼はあまりクラシック好きではないのかもしれませんが。返してくれるときも、『聞いたよ』と聞いただけで、感想もいつてくれません。私がどうだったと訊いたらはじめて『うーん、シェークスピアの《オセロ》にしては甘すぎるね』

だって。どうも彼は朋之さんと違って音楽の感受性が少ないみたいですね。私は凄くいい曲だと思いましたけど。

八月十四日 映湖

映湖様

《オセロ》に気に入ってくれてうれしいです。読書家さんが気に入ろうが気に入るまいがどちらでも構いません。

やはり音楽、特にロマン派の音楽は、たとえ表現しようとする内容が悲劇であつても、基本的には美しく書かれています。そこが同じ舞台上で上演

されるものでも、言葉による演劇と違ふところだと思ひます。

ところで前回帰幌したとき実家で、正月の話しが出ましたか？本当に楽しみにしているので、何とか実現の努力をしてください。

映湖ちゃんのかわいい唇に・・・

八月十九日 朋之

朋之様

手紙がなかなか出せなくてすみません。ここの短い夏にはたくさん植物が成長するので、この時期にできるだけ漏れなく調査しようということ、これまでにも増してハードスケジュールになっていたものですから。スタッフは男三人、女二人の五人ですが、このところ二手に分かれて湿原中を歩き回っ

ています。調査内容が多いと、当然その整理量も多くなり、もうみんなダウン寸前です。

朋之さんもお忙しいと思いますが、お身体に気を付けてがんばってください。

九月十日 映湖

映湖様

大変な時期にさしかかっているようですね。こちらにも忙しくないことはないのですが、出張以外はだいたい自宅に帰れるのでそのときは、映湖ちゃんには悪いと思いますが、音楽をたくさん聞いています。《オセロ》もよく聞いています。他にはドヴォルザークの室内楽も聞いています。はじめ難解だと思つ

ていた曲も、じつくり聞くとドヴォルザークのメロ
デイがしつかりと耳に入ってきてだんだん好きにな
ってきます。ドヴォルザークはオペラも結構書いて
いるのですが、有名なのは《ルサルカ》という水の
妖精が主人公のオペラです。その中でルサルカが歌
う《月に寄せる歌》は特に有名です。映湖というあ
なたの美しい名前は、なんとなく《ルサルカ》を連
想させますね。

今度、一緒に聞きましょう。

九月十五日 朋之

朋之様

お正月のことは、十月半ばには今年の調査はおし

まいになるので、そのあと実家でよく相談してみます。それまで返事を待っててください。

調査は二手に分かれてやっているといいましたが、私は読書家さんと回っています。二人だけで、と思われるそうですが、ここは広々した湿原なので、遠くの方で作業しているもう一組の三人が見えることが多いのでご安心ください。

調査しながら読書家さんがシェークスピアの《オ

セロの〽を詳しく話してくれました。それによると、主人公のオセロはムーア人というか黒人で、シエークスピアが〽オセロ〽を書いた一六〇〇年ころは肌の色の黒い人物を良く書くことはなかったらしくて、オセロも一見優秀で位の高い軍人となつてゐるが、最後は嫉妬に狂つて自分の妻を殺し、自らも自害するといふ結末は、オセロを本当に英雄として書いたものではないらしいのです。ですから、ま

えに高潔な英雄オセロを朋之さんのようだといったのは取り消しますね。

読書家さんは、ここでは読む暇がないのですが、実際には大変な読書家さんらしくたくさんの知識を保持っていて、面白い話をたくさん聞かせてくれます。自然に関する本が好きらしいのですが、文学的なものもよく読むそうです。また面白い話を仕入れたら書きますね。

九月二十四日 映湖

映湖様

読書家さんはシェークスピアにも詳しいようですが、前にも書いたようにドヴォルザークの曲は、序

曲《オセロ》とはなっていますが、彼が《オセロ》
というオペラを書いたわけではなく、したがってそ
の序曲ということではないのです。ここで序曲とい
うのは、ドヴォルザークには何曲も序曲とついたも
のがあります。いずれも独立した管弦楽の作品で
す。後にドヴォルザークは交響詩とつけた独立した
管弦楽曲も書いていますがそれと同じようなものだ
と僕は思います。

余計な説明が長くなつてしまいました。そういうことなのでドヴォルザークにとつて《オセロ》の物語は靈感の源になつたのでしようが、書かれた曲が物語の筋をなぞつたり、主人公たちの状況とか心理などを忠実に表現しようとしたものではないという事です。あくまでも一つの交響的作品として《オセロ》という題名から切り離して聞くのがいいと思います。

ところで雨竜沼での活動も残り少なくなつたのではないでしようか。インターネットで調べると十月初旬くらいまでで入山禁止となり、宿泊施設なども閉鎖するようですね。

実家に帰ったらゆっくりと正月の予定を話し合つてくれるようお願いします。良い返事を待っています。

九月三〇日 朋之

朋之様

お調べになつたとおりで、今年の雨竜は十月十日、十一日の連休を最後に閉鎖となります。私たちは、その最後の連休の十日に暑寒別岳に登ることになりました。この二か月半毎日のように見てきた山なので是非最後に登つて今年の調査を締めくくろうという事になったのです。読書家さんは山登りにも詳

しいらしく、自分がガイドするからバツチりだと自信満々です。寒い日には雪も降るような季節になつてしまいました。が、天気予報も悪くないらしいので大丈夫でしょう。

朋之さんも、私たち五人の暑寒別行きが無事なように祈っていてください。

十月八日 映湖

朋之様

いまは札幌です。大学の研究室で毎日集めてきた資料と向き合っています。撮り貯めた膨大な写真の整理をしています。それらの中からどの写真を図鑑に使うかなどまだまだ作業が残っています。それだけでなく来年は今年撮り残した植物の再調査と、今年よりも早い時期と、遅い時期の調査も専門のガイ

ドさんを頼んですることになりました。

こちらに戻ったら少しは暇になるかと思っていたのですが、大間違いでかえって忙しいくらいです。毎日毎日土日もなしで、五人で作業しています。先生も時々来られますが、『やってるか』といって覗いていくだけです。夜遅くまで作業を続けることも多く、近所のラーメン屋さんで夕食をすませて、また研究室に戻るような日が多いです。ただ、翌早朝に

雨竜沼に入るといふことがないだけ楽といえます。

いくら忙しくても、苦楽をともにしてきた五人でする作業は、楽しいものです。今年の調査結果をまとめたものが前編、来年のまとめが後編になる予定です。できあがったら朋之さんにも進呈しますね。

明日の晩は、みんなで札幌市内にある読者家さんのお宅に招かれています。

十月二十二日 映湖

朋之様

読書家さんのお宅では、五人ともすてきなひと時を過ごしました。ご両親もとてもいい方たちで、いかにもインテリと云った落ち着いたご家庭でした。お父様の書齋を見せてもらいましたが壁いっぱいの本棚に、いったい何冊あるのかというほどの本が並んでいました。そしてわが読書家さんの部屋にも大

きな本箱が三つもあつて、これまた凄い本の山でした。自然や植物の本が目立ちました。

読書家さんは、北海道の自然を世に紹介するよう
な仕事に就くのが夢なのだそうです。そのためには
大学院卒業後も学校に残つて研究を続けたいのだそ
うです。

びつくりすることがありました。

読書家さんはいきなり私に、映湖さんみたいな人

が一緒に研究してくれたらうれしいのだがというのが、
です。それを聞いたスタッフみんなが、映湖はだめ
よ。広島にいい人がいるの学さんだつて知ってるで
しよ、といつてくれたので助かりました。だつて、
そういう仕事もいいなつて思つてしまいますものね。
学さんというのは、武田学さんといつて、読書家さ
んのお名前です。

ということ、映湖は大丈夫ですのでご安心くだ

さい。

でもどうしてお手紙下さらないのですか。

十月二十四日 映湖

映湖様

ご無沙汰してすみません。仕事を立て込んでいたのでお手紙できませんでした。

いまは実家から通っているのですよね。正月のことは何か相談できましたか。もしご両親が映湖ちゃんだけで広島に来ることを心配されているのですから、弟さんか、誰か友達と一緒に構いませんよ。僕の方は映湖ちゃんと会いたいというのは今も、以前と同じです。あるいは、僕が一度札幌に行つてご

両親にお会いするということを考えてみてもいいです
ね。僕としては映湖ちゃんと結婚することを将来
計画として組み入れてあるのです。

それはそれとして、来年も雨竜に入る予定なので
すね。ということとは卒業を一年延ばすのですか？

十月二十七日 朋之

朋之様

私は朋之さんを尊敬しているし、好きです。ただ、卒業してすぐに結婚するとまでは、まだ考えていませんでしたから、この前のお手紙には少しびつくりしました。

おっしゃるように、大学に残ってもう少し今の研究を続けたいと考えているのです。それで、教授か

ら来年も続けるか打診されたとき、続けたいと返事しました。武田さんもですが、はじめはほとんど無給になるらしいのですが、研究室の助手のような形で研究を続けさせてもらえるらしいのです。

朋之さんにも、この私の希望を理解してもらいたいと思っっています。だから、結婚のことも、朋之さんが札幌に来て両親に会うというのも、将来そのようなきが来たら考えることにしませんか？

十一月一日 映湖

映湖様

わかりました。少なくともこの正月には広島でも札幌でも映湖ちゃんとうちと会うことは諦めなくてはなら

ないみたいです。

大学を卒業するとき、映湖ちゃんは大学院に残り、僕は広島で就職することになりました。約束を交わしたわけではないのですが、二年後には大学院を卒業した映湖ちゃんが広島に僕のところに来てくれるものと思ひ込んでいました。でもいまは状況が変わってきたようです。

映湖ちゃんが大学に残ると考え出したのは、きつ

と読書家さん、武田さんでしたっけ、のせいだと思います。つまり僕は、この正月に会うことを諦めるだけでなく、映湖ちゃんを諦めなくてはならなくなっているみたいですね。

いま僕はオセロになったような気分です。

十一月十二日 朋之

朋之様

ごめんなさい。でも大学に残って研究したいというのは武田さんのせいではなくて、私自身の考えによるものです。

朋之さんのお仕事が順調でありますように、そしてお体を大切にしてください。

平成二十二年十一月二十日 映湖

谷川朋之様

住所変わりましたのでお知らせします。お近くに
おいでのときは、お立ち寄りください。

平成二十四年五月吉日 武田映湖

〔完〕

編者あとがき

著しくIT技術の発達した今日、かつて発表の機会に恵まれなかった無名アマチュア作家に大きなチャンスが到来しました。昨年末のAmazonのペーパーバック進出はさらに力強い追い風となっています。

故山中與隆は、定年後すぐに退職し、アマチュア

としてチェロを弾いて室内楽を好きなだけ楽しみな
がら第二の人生を過ごしておりましたが、それと同
時に、作家になることを目指して文筆を続けると宣
言し、毎年のように懸賞に応募していたようです。
それは近年まで続けられていたことがパソコンの中
身から分かりました。傍におります妻の私は、とう
に文筆を止めてしまっていると思っておりますの
で、それを知って愕然としました。

ここに、山中與隆が書き残しましたものを順次発表していこうと決心しました。なんらかのきっかけで本作品をお手にとって頂けたご縁を嬉しく思います。今後発表する作品にもご期待下さい。

またブログ ([URL:https://www.duoyamanka.com](https://www.duoyamanka.com))
への投稿の形でも発表していきたいと考えております

すので、あたたかく見守っていただければ幸いです。

二〇二二年四月

山中伶子

※1 山中與隆（やまなかともたか）の名前について

與隆の「與」の字は「与」の旧漢字です。従って、入力時に「よ」で変換をかけると、下位ではありませんが、表示されません。

著者紹介

山中與隆（やまなかともたか）

一九三九年～二〇二一年

「名古屋生まれ、広島大学卒。小学校の教員暦七年、その後一般のサラリーマンを三〇数年。いまはリタイアして悠々自適の生活を享受中。大学時代に始め

た弦楽器（初めはヴィオラ、その後チェロ）を今も
続けている一方、小説や随筆の執筆にも力を入れた
いと思つています。

書くものとしては文学的なものから推理もの、歴
史もの、恋愛もの、ファンタジー、社会派的なもの
などジャンルを選びませんが、常にベースには何ら
かの形で音楽が絡んだものにしたいたいと考えています。
ライフワークとしたい目標は、音楽を前面に出し

たもので読者の方々に小説としての読み応えと、そこに登場する音楽を是非聴きたいと思ってもらえるような、しかも私の著述によつてその物語にも音楽にも感動してもらえらるような作品を完成させたいと思つています。」

著者プロフィール(二〇一〇年五月)より

今後の出版予定作品

今後は、既刊の電子書籍のペーパーバック版を出版の予定です。

既刊作品

|| 電子書籍 ||

『都志見往来日記』 異聞

コンサートは開かれた

さまよえる視察団

蒸発の衝動

インテルメッツォ

爆発

妻が消えた

既刊の短編

アマールスを聞く男

オセロー

テンペスト

定年の晩

魂の三重奏

ロシアンルーレット

ささゆり

才能移転

ある三文作家が見たもの

けんか

袖ふれあうも

ミスターフエイト

峠を越えて嫁入りした女

花火見物

ある小学校教師の敗北

三坂峠 二話

第一話 《お蓮・勘兵衛 悲恋の墓》

第二話 《緑のトンネルで》

阿弥陀山

ゴーシユの華麗なる轉身

ある男の臨終

野の寂しさ

四重奏

親も子も老いて

わしや、ただの山ザルじや

リヨウコからの電話

カルテットの風景

「オセロ」く手紙版

出来る間に、出来るだけ

なぜ？

紀行文

広島百山と吉和冠山登山

ひとり、山を歩く

短編シリーズ String Fiction Series

1 弦楽四重奏団 a

2 弦楽四重奏団 b

3 親和力

- 4 トリオ・ソナタ
- 5 不協和音
- 6 解散
- 7 音楽のある生活
- 8 ビオラを弾く生活
- 9 疑問
- 10 生きがい
- 11 激情

12 カルテット

最終三作品

裸の王様は何処へ行く

むかし俺がクマだったころ

ある兵士の物語

Ⅱ既刊のペーパーバックⅡ

『都志見往来日記』異聞

コンサートは開かれた

さまよえる視察団

短編集テンペスト他

短編集2―ある三文作家がみたもの他

短篇集3―ミスターフェイトほか

オセロー手紙版

2022年10月10日初版発行

著者：山中與隆

編集：山中伶子

タイトル：北海道雨竜沼 ミズバショウ

作者：松岡明芳

出典元：Public domain, Wikimedia
Commons

[https://commons.wikimedia.org/
wiki/File:%E3%83%9F%E3%
82%BA%E3%83%90%E3%82%
B7%E3%83%A7%E3%82%
A6P7020058.JPG?uselang=ja](https://commons.wikimedia.org/wiki/File:%E3%83%9F%E3%82%BA%E3%83%90%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%82%A6P7020058.JPG?uselang=ja)

©Tomotaka Yamanaka 2022
<https://www.duoyamanka.com>
